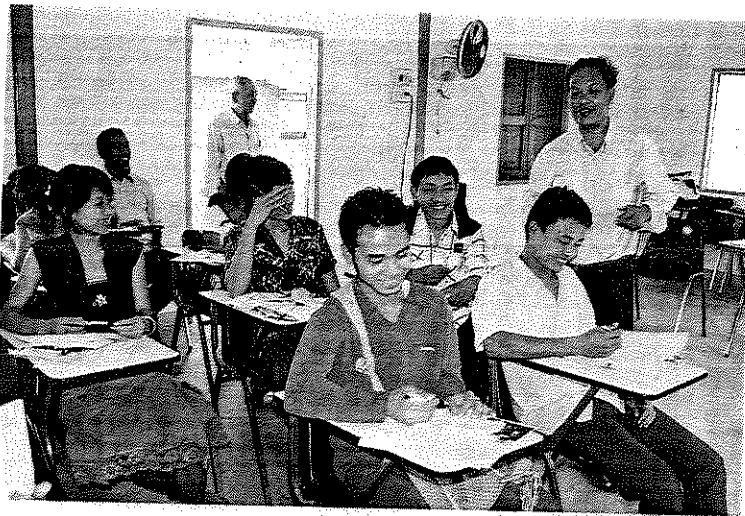


4/9 信濃毎日新聞
7頁

タイ



タイ北西部メソトの法律学校で、授業を受けるミャンマー人の若者(共同)

世界の国から

ミャンマー国境近く 法律学校

「法律とはすべての国民に平等に適用されるべきものだ。木造平屋の教室で、二十代を中心に二十五人の男女が講師の話に熱心に耳を傾け、ホワイトボードに並ぶ法律用語を書き取って

ミャンマー国境に近いタイ北西部の町メソトに、ミャンマー軍事政権の迫害を逃れた民主活動家や少数民族の若者が人権と民主主義の理念を学ぶ法律学校がある。来年実施予定の総選挙を前に長期の禁固刑判決を乱発するなど、民主化勢力への弾圧を強める軍政に怒りを募らせ「いつか法の正義を実現させたい」と若者たちは熱い思いをたぎらせる。

いた。それぞれ境遇は違うものの、全員が軍政の迫害を受けタイに流れ込んだ「不法滞在者」だ。二〇〇六年二月に開校した「ピース・ロー・アカデミー」は、国外で活動する

解する若手リーダーを育てるのが目的」。講師を務める弁護士ティン・ウー代表は説明する。全寮制の二年間コースで、学費は無料、生活費も支給される。少数民族カレニーの女性

迫害逃れた若者ら
正義実現させたい

「法律とはすべての国民に平等に適用されるべきものだ。木造平屋の教室で、二十代を中心に二十五人の男女が講師の話に熱心に耳を傾け、ホワイトボードに並ぶ法律用語を書き取って

ミャンマー人弁護士らの団体「ビルマ法律家協会」(本部メソト)が主宰。デンマーク政府や日本の非政府組織(NGO)が支援する。「腐敗した司法を立て直すため、法律や民主主義を理

なかつた」
家族と暮らしていた村は軍に襲撃され、女性や子どもが強姦され、殺された。「祖父も殺された。泣き寝入りするしかない」とあきらめていたけど、法律を学んで初めて軍政に立ち向かわなければと思った」
国際人権法や刑法などを学ぶが、帰国さえ困難な学生たちが現体制下で法律家になることは不可能だ。ティン・ウー代表も「民主化勢力を排除して進める軍政の民主化プロセスは、残念ながら止められないだろう」と嘆く。それでも「民主化の芽を絶やさないことが必要だ」と力を込めた。(メソト共同)植田穂子